

発達障害者の食の問題に関する調査・研究
脳機能系障害研究部・発達障害研究室 和田 真 (わだ まこと)

こんにちは、脳機能系障害研究部・発達研究室では発達障害の当事者に多くみられる「食べる事」に関する問題について研究を行なっています。特に、自閉スペクトラム症があるお子さんでは、様々な食の問題が生じることが知られています。嫌いな食べ物を無理強いするのは望ましくない一方で、偏りすぎた食生活は成長の遅れや病気につながり、医療および社会的な問題をおこす可能性があります。しかし、自閉スペクトラム症のある人での味覚の問題は、実態やメカニズムがよくわかっていないため、本研究では、食行動の実態調査をするとともに、当事者の味の感じ方の特徴が食行動に与える影響を研究しています。

これまでに、自閉傾向に関連した食行動についてアンケート調査を行いました。その結果、自閉傾向が高い人では、味の混ざりが苦手で、苦手な食感もあるという特徴がわかりました。さらに酸味が苦手な人は全体的に食の苦手が多いこともわかりました。

現在、味の感じ方を調べるため、共同研究により開発した味覚刺激装置を用いて、実際に甘味と塩味を短い時間差で連続的に呈示して、その順序などを答えてもらう実験を行っています。味の感じ方の違いを明らかにした上で、食行動との関連について調査を進めています。